

## フォーラム・セミナー報告

## KU-COILシンポジウム・ワークショップ2015を開催しました

日時：12月4日(金)・5日(土)  
場所：図書館ワークショップエリア

平成27年12月4日・5日の二日間にわたって、昨年の第一回に続くCOIL(オンライン国際交流学習)に関するシンポジウムおよび英語で教授する専門科目担当者を対象としたワークショップを図書館のワークショップエリアおよびMi-Room(マルチリングル・イメージルーム)にて開催した。本年度は、COILのような国内の教育の国際化を促進する取り組み(例えば英語にて開講する科目の充実など)をテーマとして、国内外の教育者・関係職員そして本学関係者を対象とした。1日目はワークショップを午前・午後をわたり展開した。EMI(English Medium

Instruction)を国内で進める上で問題になる点を洗いだし、ブラジル・メキシコ・マレーシア・UAEなどといった各国の大学での事情を参加者に共有してもらった。日本におけるEMIの導入はまだ歴史が浅く、本学を含めその教育の質の確保に試行錯誤している段階にあるが、海外の大学においても同様の事情に直面しつつも解決策を探り一部全学部の科目を英語で開講するまでに至っているような機関もある。ワークショップでは、どのような国際学生がその大学へ留学し、どのような(EMIを含む)カリキュラムを望むのか、といったその地域や機関ごとの特色についても配慮が必要であるといった意見交換も行った。午後のワークショップではアクティブ・ラーニングそしてCOILのような活動を行う上で、不可欠となるICTの具体的活用例について、参加者らに実際に課

題に取り組んでもらった。学生目線で、彼らの日常においてどのようなICTツールにアクセスがあるのか、また国際交流を特別なものとしてではなく毎日のコミュニケーションとして位置付けてもらうためにはどのようなツールを選択し、どのようにタスクを課せば効果的なのか、といった教育効果に主眼を置いたワークショップとなった。

2日目のCOILシンポジウムでは、昨今の国内の国際教育事情についてグローバル人材育成教育学会の小野博会長・国際教育大学のピーター・マッキヤグ副学長に基調講演いただき、その後本学で平成27年に展開したCOIL授業についてポスターセッションの形態にて発表を行った。第一回シンポジウムであった昨年度から、本学におけるCOILの導入事例は確実に増加しており、4月より新たに2名の特別任用教員(教育推進部)が加わり次年度の充実がさらに期待できる。本シンポジウムにおいて本事業の進捗と今後の展望を広く発信することができた。また、国内の他大学での導入にもつながっており、喜ばしい限りである。

(国際部 池田佳子)



シンポジウム&ワークショップの様子

## 学生ラーニングCaféの輪が広がっています！

教育開発支援センターでは、学習支援の一環としてラーニングCaféを継続して実施しています。開始当初は教員が主体としてCaféを実施していましたが、最近ではCaféを支援してくれていた学生スタッフであるラーニングアシスタント(LA)が主体的にCaféを企画、運営しています。現在はLAが主催する、「学生ラーニングCafé」と教師を志望する学生や教育に関心を持つ学生を対象とした「教職ラーニングCafé」の開催数も増えてきました。

2015年度春学期、秋学期の学生ラーニングCaféで扱ったテーマは「文章の要点つかむコツ」、「PREP法」、「グループワークの役割分担」の3つです。LAが各テーマについて2人ずつ担当し、企画、運営をしました。LAは「学生としての自身の学びや躰きの経験」、「LAとして授業をサポートしている経験」から、どのような学部の学生でもこれら3つのスキルは必要で、卒業後も

身につけておくべきものだと考えCaféのテーマを決めました。

「文章の要点つかむコツ」では、参加者は要約に取り組みました。参加者は新聞記事を読んで段落毎にトピックセンテンスを作ってもらってワークに取り組み、作った文章を数人で共有しました。ほかの学習者との共有をワークに取り入れることで、活気のある雰囲気作りを心がけられていました。

教職ラーニングCaféでは、教職を目指す人に焦点を当て、教師にとって必要な知識や考え方を学び、教育課題に対して自身の考えを述べたり、話し合ったりすることを目的としています。教師になるつもりはないけれども、教育に興味がある人にも参加してもらえるようなテーマを設定しています。

例えば、「道徳の教科化」をテーマとしたCaféでは、自身の道徳観を見つめ直し、その道徳観を伝える方法をみんなで考えまし

た。また、カウンセリングマインドをテーマに、実際にカウンセリングマインドの手法を用いて会話をしてみるといった、実践的な活動も行いました。

具体的な進め方の手順としては、初めに、教育課題について議論するための基礎的な知識や新聞記事について講義形式で話し、その後、それら知識を用いて自分の考えをまとめ、発表する時間をとっています。

実際に参加してくれた学生は様々な学部に所属しており、普段関わることのない学生同士のコミュニケーションにより、新たな視点を持ったり、自分の考え方が変わったりする楽しさ、新鮮さを感じていただけたと思います。ラーニングCaféは春学期も実施します。新学期も「学生ラーニングCafé」「教職ラーニングCafé」を楽しみにしていただき!

(LA 今津彩子、富永峻史、金山遥香  
教育推進部 岩崎千晶)